

令和3年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO法人田万川地域サポート21	代表者	齋藤 博英	法人・事業所の特徴	『ぬくもり』では理念をもとに、地域に密着した介護サービスを提供できるよう日々努めています。多様なニーズに対応できる『小規模多機能ホーム』では、利用者様だけでなく地域や家族を支援する福祉活動を続けています。
事業所名	小規模多機能ホームぬくもり	管理者	津守 美江子		

出席者	市町村職員	知見者	地域住民/団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	3人	2人	2人	1人	1人	3人	人	15人

項目	3年度の改善計画	3年度の改善計画に対する取組み・結果	意見	令和4年度改善計画（確定）
A. 事業所自己評価の確認	普段から事業所自己評価項目を意識し、業務にあたるのが有意義であるという認識で職員に周知する。	小規模多機能の業務規律を定期的な部門会議や普段の口頭での申し送りなどで徹底し、統一性・一貫性のある、事実・根拠のある介護に努めた。年度途中で職員の交替もあり、その点を一層強化できたものと評価している。	特になし	事業所自己評価項目を意識し、チームとして統一した介護サービスを提供できるよう心がける。コロナで孤立しがちなご利用者への小規模多機能ならではのアプローチを工夫するとともに、ご本人や関係者を含む感染対策の協力を呼びかける。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、玄関ホールの季節感のある飾りつけ（雛人形など）やテラスの植込みなどに工夫を凝らし、利用者はもちろんご来訪される家族や地域の方々にも豊かな雰囲気味わって頂く。	季節の野花などを飾るなどして室内の雰囲気を作った。雛祭り、端午の節句、七夕などを演出した。ご利用者が重度化し、お正月のしめ縄を本年は作ることが難しかったので購入した。	特になし	室内の季節感のある飾りつけやテラスの植込みなどに自然な配慮をし、ご利用者に生活上で豊かで穏やかな気持ちで過ごしてもらうよう工夫する。コロナ感染対策として玄関入口のビニール製暖簾の1日2回の消毒をする。
C. 事業所と地域のかかわり	普段からの情報収集や地域関係の各種会議への参加、たまらぼ等による地域ニーズをくみ上げ、地域の事業所としてできることを取り組んでいく。	コロナにより行事などは自粛気味であったが、コロナ対策を取りながら参加/実施できる会議などは極力参加した。たまらぼも感染対策を取りながら継続した。	特になし	普段からの情報収集や地域関係の各種会議への参加や、コロナ感染対策を講じながらたまらぼを含めた事業を通じて地域ニーズを積極的に汲み上げる。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者家族の一層の会議への工夫や一般住民の会議への参加方策について引き続き検討する。	コロナ対策のため限られた状況中であるが、利用者さんの地域との繋がりのため、関係者とは書面電話、メールなどをより頻繁にとりあい、情報共有の量と質を補うよう努めた。	特になし	関係者と直接の対面や実施ができない場合は、その他の手段（オンライン、電話、メールなど）を有効活用し、地域の情報を細かにフォローし、関係づくりに努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	小規模多機能ホームの利用の現状を委員の皆様にご覧いただき（サービスの強みや課題点なども含む）、サービスに対する意見を聴取し、小規模多機能ホームサービスのより一層の充実を図る。	限られた会議の機会を有効に使い、情報発信と課題抽出、課題改善に向けた取組をとった。文字だけでなく、写真を使うことで事業所の現場の空気を感じてもらえるよう配慮した。	特になし	小規模多機能ホームの利用の現状と当サービスの強みや課題を委員の皆様にもご覧いただき、意見を聴取することで、サービスの質の向上に繋げる。
F. 事業所の防災・災害対策	防災への対応は福祉関係サービス分野では特に重要であることから、協力体制整備への協力も含め、前年計画を引き続き継続して行う。	例年通り定められた計画に基づき、実施することができた。	特になし	令和4年度も協力体制整備への協力も含め、前年計画を引き続き継続して行う。BCP策定を進める。